

1年生女子の挑戦とこれからの育成支援

神奈川県立向の岡工業高等学校 教諭 尾島 雅章

1 はじめに

本校は、昭和36年(1961)に設立され、令和3年(2021)に創立60周年を迎えた工業高校である。「ものづくり」は「人づくり」をグランドデザインとし、ものづくり立県かながわの担い手となるマイスター育成を目指す学校づくりを行っている。そして、この節目の年に大きな成果を上げた第21回高校生ものづくりコンテスト(以下、ものコン)全国大会電気工事部門の取り組みについて紹介する。

2 1年生女子の挑戦

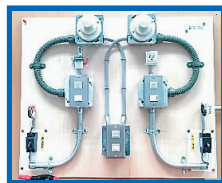
将来技術者として社会で活躍するリーダーを育成したいと考え、日頃の教科指導や資格指導、ものコンの技術指導や環境整備に尽力してきた。消極的な生徒が多い中、「本格的な技術を身に付けたい」「工業高校でできない経験をしたい」と、競技参加への強い意思を伝えてきたのが、全国大会で活躍した山本咲さん(1年)である。もともと、ものづくりが好きで手芸や工作教室等に勤しんできた彼女だが、工業高校で学ぶスキルは、プロの技術と認識しており、技術の探究にはこれしかない」と競技への参加を決意した。神奈川県大会で優勝し、全国大会への出場を決めると、本格的なものづくりと向き合う時間が始まる。指導者として1年生女子の全国大会への挑戦は期待も膨らむが、不安もあった。好きで始めたものづくりが制限時間に追われ、焦りながらでは楽しめる筈がない。かける言葉に気を配り、結果ばかりを求めず、丁寧な作業を常に心がけさせた。競技であっても、ものづくりの原点を忘れずに、技術の向上に自身の成長を確かめながら精進させた。会話の中で、「課題や見本のトレースにとどまらないものづくりがしたい」との考えを共有しており、競技課題を反復練習する技能としてではなく、作業の意味や理論を理解し、試行錯誤を繰り返しながら積み上げる技術が、彼女のものづくりの幅を広げることを実感できたからこそ、モチベーションを高く保ち、努力を継続できた。

山本咲さんのコメント：「初めは工具の名称も分からないところからのスタートでしたが、一つひとつの作業を丁寧に教えていただき、技術の向上に努めることができました。優勝は正直実力以上の結果だと思えますが、これを自信にして次の目標へ向かい努力を続けたいと思います。」

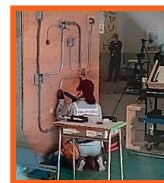
史上初の1年生の優勝により、さらに期待は膨らむが、彼女のものづくりはこれからの本番である。電気工事のスペシャリストを目指すのも選択肢の一つだが、今回の経験を活かし、新たな分野に挑戦することもやぶさかではない。彼女の探究心がどのようなものづくりに結びつき発展するか興味が高まる。そこが、1年生でもものコンに挑戦した大きな意義になるのかもしれない。今回、ものコンの取り組みを通して何度も繰り返した「課題を見つけ解決する」というプロセスを自ら行えることが、彼女にとって一番の財産となり、育ち高まった能力だと実感してほしい。この先どのようなものづくりをする上でも活かせる、彼女が技術者として成長するには必要不可欠なものとなるため、ものコンをゴールではなくスタートに選んだことの成果をこれからも支援し見届けたい。

3 おわりに

この度の活躍により、神奈川県教育委員会の教育長に表敬訪問を行った。その際に、課題の内容説明のため、神奈川県マークを製作して持参した。培った技術を応用したアイデアあふれる作品となり、好評を博した。今後も、ものづくり教育の活性化を図り、生徒の育成支援に努めていきたい。



作品(神奈川県のマーク)



全国大会の様子